【小樽税務署長賞】

身近なニュースと税の関係

小樽市立菁園中学校　一年
鈴木　稟太朗

小学生高学年の時だろうか、いつも見ているようなニュースが印象強くなった時があった。火事、災害などの事で、「復興に協力しましょう。」のような宣伝に、自分は「復興のためのお金は、どこで手に入れるのか、どこが払っているのか。」という疑問が思い浮かんだ時だった。このとき自分が何気なく、買い物をしている時疑問になった「なんで税金なんか払っているんだ？」と日々思っていた事が身近な所から世界へとつながっているとは知らなかった。

六年生の時、税務署の人が学校にいらっしゃった時、十五分程度の税金の映像を見させてもらった。最初、「なんだこれ？」とバカにしていた自分だったが、税金が無かった時の日本、世界などの経済状況、日頃の過ごし方を見るといままで気になっていた、消費税を払う意味などが分かった気がした。これを見て自分は、先生が話してくれた選挙の話、少子高齢化などの日本について考える問題がどんどん進んでいくと日本の税金はどうなるのだろう？消費税はどうなるの？などという心配に対して、若い人がいなくなると、働けない人ばかりになってしまい日本が危ない状況下に置かれてしまう。小樽は見て分かるとおり、少子高齢化が進んでしまっている。という事は、税金が集まらず、今見ている景色などが見られなくなるという事が起こる可能性があることだ。実際二〇五〇年には六十五歳以上の人に対する二十歳～六十四歳の人は一人になってしまうと言われている。このことは重要だと考えられる。だから、これから税を知る、税を考える人たちに、「税」という一つのキーワードとしてその重要さを知ってもらうことが大事だと考えた。「選挙に行かない。」「行きたくない。」などと、選挙を軽くとしか思っていない人たちにもっと税を、知って消費税などから、政治、経済などの事など、広く物事を知り選挙に参加してもらいたく思いました。理由は選挙に行く人も行かない人も、国民であり選挙権を持っているからである。選挙に一人でも多く行くことによって少しでも社会に協力することができます。税金は他に子育て支援、年金、介護などの国民をまず最初に考えていることが日本では分かりやすいです。日本はよく考えているなと改めて思った。

税金は私たちの身の回りの、警察、消防署、もちろん学校も関わっている。自分たちが生きているからこそ、税の大切さ、重大さが改めて感じられるだろう。その事から社会への重大な問題、選挙への大事さ、若い人たちがいなくなってしまい高齢者が増えてしまう日本や私たちの生活場所小樽に響く問題も、この「税」という助けに着目し生活を送るといつもの生活より何か身近に感じられるものがあるかもしれない。